

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 |
|--------------------|-----|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員のシフト交代の際に必ず行われる10分ミーティングでは、理念を念頭においた具体的な引継ぎを行っています。また、新人には3ヶ月6ヶ月1年ときめ細かく理念を共有する研修を行っています。 | 引継ぎの10分間のミーティングでは引継ぎ用の議事録で利用者の状況を職員で共有し、理念に沿ったサービスを提供しています。新人研修を育成計画に沿って3か月、6か月、1年と行い理念の徹底を図っています。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入り、町内の行事(運動会、クリスマス行事等)にも参加している。 近年では利用者のレベルダウンにより、参加率が悪い。現在では外出より、来訪ボランティアによる余興等で楽しんでいる。 | 町内会の行事や地域の高齢者会議からの「コミュニティ広場」への案内にも利用者と参加しています。また逆に当事業所が行う防災訓練や講演会への参加呼びかけを町内会を通して地域に行っています。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 車椅子の貸出等を無料で提供している。 | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町内会長、包括支援センター職員、介護相談員、家族、利用者の代表、職員等の出席を得て年6回の会議を開いています。町内会長などから積極的な意見も出され、運営改善に寄与しています。 | 運営推進会議は地区包括センター職員、町内会長、介護相談員、事務所職員、家族、利用者代表等が参加し年6回行っています。災害時の近隣の協力についても話し合い、地域ぐるみの避難訓練を実施しています。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 介護相談員は平成14年から入っています。相談員の情報交換会や市の担当者の参加する研修会に参加している。市内の「グループホーム協議会」に参加し2ヶ月に1回の会合で、様々な問題を協議しています。 | 市役所の担当職員と利用者の情報交換を日常的に行い連携を深めています。又、相談委員の情報交換会、研修、グループホーム協議会に参加する中で市の職員と意見交換を行いサービスの向上に役立っています。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束禁止は、事業所内の拘束防止委員会を検討し、利用者の立場を考えた対応に取り組んでいます。身体拘束ゼロへの手引き等を利用し、職員全体に回覧している。 | 拘束防止委員を置き利用者の人命尊重を重視し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。又、拘束防止委員が「身体拘束ゼロの手引き」を使って受けた研修内容を職員に報告する他、手引書の回覧を行っています。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 見たり聞いたりした時には必ず報告する義務があることを話している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、研修内容を回覧し、会議としてもたないまでも、ミーティング等で話している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 担当職員が十分説明している。又機会あるごとに質問に関しては十分説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 事あるごとに各職員に報告し、検討している。 家族からのご要望は少なく、むしろ職員の方から伺う程度になっている。 | 家族の事業所への訪問の頻度は高くその時に家族からの要望を聞くことで家族の満足度の向上に努めています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | コミュニティーボックスを設置している。 リーダー会議を中心に職員の意見を良く聴き、細かな問題については解決している。 | 職員の要望はリーダー会を通して管理者に伝えています。職員の休暇習得の要望は利用者のサービスに影響が出ないようにシフトを考え対応しています。若い職員の意見を取り入れたサービスも実施しています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 事業所が特にアピールしている点でもあり、日頃から努めている。有給等も取り易い状況にしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内研修を始めとし、各研修についても、全ての人が受けられるよう配慮している。3ヶ月、半年、1年と各項目に到達度を記入してもらい、自覚を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 松戸市グループホーム連絡協議会の研修及び、施設の見学等も実施し意見交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 毎日のように訪室し、可能な限り要望に応えるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面会時間を作り対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時のレベルに応じ、他機関等の情報も収集し紹介等している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個別の対応に重点を置き実施している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 努力はしているが、一部の家族に於いては、本人と家族の関係がうまくいかず、支えるのに困難なケースもある。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族の協力を得ながら友人・知人の面会を設けている。 元気な方は美容院、床屋、スーパー等に出かけています。 | 家族からの連絡により、利用者の友人、知人、近所の方などが面会に来ています。馴染みの床屋、美容院、スーパーなどには利用者の要望を入れて職員が付き添って行っています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ユニットにとらわれず、気の合う利用者同士で行事に参加出来るよう努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談、支援に努めている。各関係機関への問い合わせ等 | / | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族も含めた話し合いを、来訪時に行って本人や家族から聞き取りをしアセスメントを行い、思いや、意向の把握に努めている。 | 日頃の係わりの中で言葉、表情、態度、行動などで一人一人の思いや意向を把握しています。利用者の意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしています。 | 「利用者の介護度が進行する中でもっと利用者の思いや意向の把握に努めることが大切と思われる」との声が職員から出されています。今後の更なる取り組みに期待します。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人一人聞き取りを多くし、情報収集に努めている。 | / | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日記録し、現状の把握に努めている。 | / | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画書の中に評価項目を設け、全職員がサービス内容の共有を図り実施にむけている。 | センター方式を使い利用者のライフスタイルを把握しています。利用者、家族の意見も入れて職員が課題やケアを話し合い介護計画を作成しています。モニタリングは3か月を基本として状況に応じて行っています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日記録している個人ファイルは、どの職員が記録してもよいことになっており、情報の共有化が出来る。 | / | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 家族との話し合いやご本人の意向も取り入れ、個別のサービスを行っている。 | / | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 積極的に地域の競技会や消防、教育機関等と協力している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2回の在総診があり、主治医の違う方については、その都度家族とともに、主治医のところを受診している。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤看護師が在職している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時の面会は必ず行っている。看護師も病院側と情報交換を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期ケアについては、契約時に説明をしています。 終末期ケアの同意書を作成し、医者や家族、ご本人及びスタッフ同伴で話し合い、支援に取り組んでいる。 | 終末期ケアについては契約時に説明しています。利用者、家族、医師、スタッフで話し合い同意書を作成し同意を得て支援を行っています。昨年は終末期に家族や知人が利用者の傍でお別れを行い家族から感謝の言葉が聞かれています。 | 終末期ケアは利用者も家族にとっても喜ばれ安心できる支援となっています。しかし来客などで一部の職員の負担が重いとの声も聞かれるので今後は負担にならない対応方法等の工夫されることを期待します。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 蘇生法の訓練を消防士によって研修している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の関係各位と連携をとり、災害の発生時には利用者の保護を依頼しています。今年度運営推進会議の委員の参加により、夜間想定避難訓練を実施した。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇マニュアルにてその人に合った言葉使い(方言)等を用いて対応している。 | 支援が必要な時は利用者一人一人に確認して行っています。又、利用者のお国ことばで話しかけ、利用者の気持ちに添った配慮もしています。入居者同士のトラブルにもお互いが傷つかないように職員が対応しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉かけは常に行っているものの、重度の方の言葉の理解が困難な方には、スキンシップ等で対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 必ず意向を優先し可能な限り要望に応えるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人と話し合い、出来るだけ実現出来るよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日にはご本人の好きな物の提供や、日々会話の中で食べ物のお話をし、その方の嗜好を知る。又片づけの出来る方には、お願いをしている。手作りおやつを提供や、ユニット毎の好物を作り楽しんでいる。 | 地産地消を大切に旬の食材を使い個々の利用者の好みや量などに合わせた食事の工夫が伺えます。訪問日に利用者からも「この食事は美味しいよ！」の声も聞かれています。行事食、誕生日食等工夫されています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | チェック表を作成し、記入している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 実施している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の自立に向けた排泄を支援しています。 排泄チェック表に基づき、個人に合わせた対応をしている(現状維持及び、日中のみ免綿パンツで過ごす) | 排泄は排泄チェック表を用いて排泄のリズムを把握しています。現状が維持できるように日中は綿パンツで過ごせるように個々に合わせてトイレに誘導を行なっています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 高齢による機能の低下等考え、栄養士との献立の検討や個別の活動(散歩)で支援する。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 風呂場が一カ所(地下)である為、基本的には週3回、各フロアーごとの入浴で対応しています。個々の希望には、数人まとまった場合に支援しています。 | 広い浴室には浴槽が2カ所設置されています。一人で入りたい利用者の為に明るいカーテンで区切り、ゆったり入れる様に工夫しています。地下にあるため基本的には週3日フロアーごとに曜日が決めています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | お茶などの回数を増やしたり、余暇、仕事、制作等を通してリラックスできるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 看護師が管理し、指示通りの服薬が出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その方の出来るもの(縫物)は見守りの中でして頂き、重度の方には、音楽や歌、傾聴で気分転換の支援をしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 介護度の進行により出かけられなくなる方が増加している現状があります。金融機関、喫茶店、パン屋に行く方も居る等、日常的な外出は、その時の希望により、個別対応をしています。又、家族の協力により、外泊、散歩を楽しんでいます。 | 天気の良い日は散歩や利用者個々の希望を取り入れ行きつけの床屋、美容院、喫茶店、金融機関などに職員が付き添って行っています。又家族の協力を得て家族と一緒に外泊をしたり、散歩などもできるよう工夫しています。 | 職員から「利用者の介護度の進行により外出に対して少し消極的なのではないか」「もう少し積極的に外食や色々な場所への外出を考えたい」等の声もきかれます。今後改善される事を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理はホームで行っているものの、ご本人の意向に沿って買い物をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 可能な方には支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の掃除は欠かさず行い、生活し易いように整理整頓、道具の配置など利用者と一緒に考え支援する。 リビングには、花、絵画、置物等により落ち着いた環境を作っています。 | 1日過ごすことの多いリビングは皆で囲める大きなテーブルとイスを置き程よく装飾され落ち着いた空間になっています。玄関、浴室、トイレも清掃が行き届き花、絵画、置物などにより気持ちよく過ごせる場となっています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 陽だまりの所に椅子を置く等し、くつろげるよう支援する。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は和室ですが、車椅子に対応するときには硬質のマットを敷く等の配慮をしています。本人の好みにより布団かベッドが利用できます。室内は落ち着いた雰囲気は維持され、使い慣れたものが置いてあります。 | 和室の居室には利用者の要望でベットか布団を用意しています。思い出の写真は家で使い慣れた筆筒の上に飾っています。又壁面には職員の手づくりの花の装飾が飾られ居心地の良い雰囲気となっています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 段差の解消や、窓やカーテン等の開け閉め、手すりの利用等により、自力歩行を促す支援、階段昇降の利用により、筋力維持に努める。 | | |